明治二十二年三月二十二日內務省許可
明治二十七年二月四日發行

金澤醫學會雜誌

第六卷第四十三號

金澤醫學會

金

金澤醫學會雜誌第六卷第四十三號目次

◎金澤醫學會

◎富山縣下ニ於ケル肺ジストーマ病發見　會員　上原秀三

◎十二指腸巨口虫病ニ對スル綿馬Xト柘榴根皮ノ優劣　在栃木　德木有鄰

◎耳科小言第一　會員　藤井伊之吉

◎實驗雜俎

◎痔瘻燒切ノ一便法　會員　飯森益太郎

◎內外新說

◎「アクロメガーレ」ニ就キテ

◎縫合糸トシテノ新材料

◎傳染病ニ對シテ解熱藥ノ價

◎高膀胱截開術ニ際シテ膀胱擴張法

◎脚氣ノ傳染病ニ於ケル位置

◎本會紀事

◎醫海時事

◎廣告

裝置ヲ要スルニ非ラス唯ランゲンベック氏ノ翼狀箝子ト吹管ヲ有スル「アルコールランプ」アルヲ以テ足レリトス

其方法ハ先ツ通常ノ如ク痔瘻ヲ摘出シテ箝子ニテ挾ミ痔瘻若シ大ナル時ハ鋏ヲ以テ其一分ヲ切除シ次テ水ニシ濕潤シタル布片ヲ箝子ト肛門トノ間ニ纏絡シ（此布片ニハ時々冷水ヲ灌注スルヲ要ス）亞兒箇保兒燈ヲ肛門ヲ去ルコト凡ソ八仙迷ノ前ニ保持シ吹管ヨリ之レヲ吹ク時ハ火焰ハ横ハリテ其尖端痔瘻ニ適中シ暫時ニノ充分燒灼スルコトヲ得ヘシ然レ𪜈急劇ニ燒灼シタル者ハ內部ノ組織充分凝固セスシテ后出血ヲ起スノ恐アリトスレハ之ヲ徐々ニシ或ハ焰ノ赤熾部ヲ以テスルヲ可トス此ノ如クシテ燒灼スル時ハ敢テパクェレン氏燒灼器ヲ用フルト毫モ異ナルコトナク且ツ充分ニ燒灼スルコトヲ得ヘシ今此法ノ利益ヲ擧クレハ左ノ諸點アリ

(1) P、氏燒灼器ニ比スレハ價甚々廉ナリ

(2) 「アルコールランプ」ハ大抵ノ醫家已ニ之ヲ常備セリ

(3) 「アルコール」ハ「ベンチン」ヨリモ甚々廉價ナリ

(4) 介者一人ヲ省クヿヲ得

(5) 燒灼充分ナリ

終リニ臨テ尙一言スヘキハ余カ此法ニ由テ手術セル患者ニメ未タ一名ノ後出血若クハ他ノ不良ナル副作用ヲ來セシ者ナキハ余カ同僚諸君ノ証明スル處ナリ故ニ開業醫諸君ニメ未タヒ、氏燒灼法ヲ持タサル人々ハ此法ヲ試用セラレンヿヲ乞フ

內外新說

「アクロメガーレ」ニ就キテ Acromegaly

譯者曰「アクロメガーレー」ナル症ハ顏面、前膊、手下腿及ヒ足ノ左右同等ニ肥大スルモノナリ、如何ナル語ヲ以テ適譯トスヘキヤヲ知ラス故ニ此ニ原文ヲ書シテ世ノ識者ヲ待ツ Duff Archibald Clwrel.

Y S 譯

一千八百八十六年「シヤルコー」氏「クリニック」ノ主事「マーレー」氏初メテ此ノ症ヲ有スル患者二名ヲ示シ且ツ其ノ症狀ヲ詳細ニ記載シテ報告セリ氏ノ記載ハ完全無缺ニシテ種々ノ研究及ヒ其ノ原因ニ關スル學說ノ導火線トナリ爾來諸國ヨリノ報告九十症ニ垂ントスルモ一ノ以テ添加スヘキナシ一千八百九十年「ライテ」氏ハ四十九症ヲ報告シ同九十二年十二月「コリンス」氏ハ「ライテ」氏以來ノ症十九症ヲ蒐集シ精神病及ヒ神經病雜誌ニ投寄セリ一般ニ新病ノ世ニ公ニセラルヽヤ最初ハ稀有ナルモノトスルニ同シク此ノ症モ世人ノ之レニ知ルニ從ヒ處々ニ報告續出シ近來ニ至リ余リ稀有ナラサルニ至レリ、

一二ノ例外ヲ除キ此ノ病ハ遺傳性ヲ有セサルモノナルカ如シ然レトモ患者ノ多數ハ其ノ家系ヲ充分ニ調査スル能ハサリシヲ以テ未タ確實ニ其判定ヲ下ス能ハス春期發動機后卽チ十三四才ノ頃ヨリシテ三十才ノ間ニ於テ發現スルモノ多シト雖モ稀レニハ先天性ニ之レヲ有シ或ハ晩年ニ及ンテ發露スルアリ女子ニ比スレハ男子ノ罹ルコト多シト雖僅微ノ差ナリ其ノ原因ニ付キテハ諸說紛々何レカ是ナルヲ知ラス從フテ一モ信認スヘキ價値ナシ

通常上肢ノ肥大ヲ以テ初マリ暫クシテ足モ同樣ニ變化シ次テ顏面ノ硬部及ヒ軟部ニ及ホシ殊ニ前頭竇及ヒ下顎ニ著シ胸廓モ同樣ノ狀態ニ陷ルコトアリ屢々脊柱ノ彎曲ヲ合併シ上背椎部ヘ屈曲シテ較背狀ヲ呈ス患部ノ

組織ハ彈撥性ヲ有シ水腫ノ如キ壓ヲ加フルモ指痕ヲ止メス只タ觸診上其ノ部ノ硬部及ヒ軟部ノ膨大スルヲ認ムルニ過キス凸起シタル眉秀タル顴骨肥滿シタル鼻及ヒ口唇、膨大シタル頤及ヒ著明ナル顏皺襞等一見セシモノハ決シテ他症ト誤解スルコトナカル可ク約言スレハ癩病ノ獅子顏ニ髣髴タリ頭部及ヒ耳翼モ屢〻同一ノ變化ヲ受ケ患者ノ多數ハ時々帽子ノ大サヲ增サヽル可カラサルヲ訴フ鼻咽頭腔懸樣垂及ヒ口腔ノ粘膜ハ肥厚シ聲音ハ低ク咽喉聲ヲ帶ヒ喉頭ハ肥大ス下顎骨延大スルニヨリテ各齒間ニ空隙ヲ生ス舌ハ其ノ容積ヲ增シ舌背ニ三四ノ皺襞ヲ形成ス或ル症ニアリテハ舌尖頤端ニ達シ或ハ鼻端ヲ覆包シ得ルモノアリ肩胛及ヒ鎖骨肥大シテ肩峯ノ突隆ヲ增シ上膊ハ只ダ僅ニ下端ノミ變化スルモ前膊ノ中三分ノ一以下指尖ニ至ル迄特異ノ變化ヲ現ハシ其ノ形ヲ恰モ打球板狀或ハ鍬狀ヲナス肥大ノ增進スルニ從フテ腕力減少スルモ運動及ヒ共同一致作用ハ影響ヲ受ケス手掌面ノ皮下結締織著シク硬厚シ皺條深且ツ大トナル指ハ殆ント「ソーセージ」狀ヲ呈シ爪ハ指ニ順シテ其ノ大サヲ增スモ寧ロ其ノ幅徑ノ比較的ニ大ナルヲ見ル爪面粗鬆ニシテ數條ノ縱溝ヲ造リ足及ヒ下腿ハ上肢ト同シク肥大シ其ノ長徑厚徑及ヒ幅徑ヲ增シ內側ニ於テ殊ニ甚シキモ時トシテハ外側ニ來ルコトアリ足趾ハ膨脹シ患者ノ色欲全ク消失ス

嘗テ「クレブス」氏ノ指摘セシカ如ク或ル症ニアリテハ屍体解剖上胸腺ノ肥大スルヲ目擊シ得可ク又活体ニ於テ打診上其ノ腫大ヲ認知シ得可キモ稀レナル發現ト云ハサル可カラス多數ハ同腺ノ萎縮シ或ハ全缺ス脾ハ肥大シ脾腺ハ肥大或ハ萎縮ス松菓腺ハ全症ノ五十%ニ於テ腫大シ視神經床及ヒ其ノ交叉部ヲ多少壓迫シテ視覺ノ障害ヲ起コシ綱膜ノ鼻側半部ノ視力消失シテ顯顯

側ノ半育ヲ來タシ聽覺モ屢〻障害ヲ蒙リ或ル場合ニアリテハ嗅官其ノ作用ヲ失フ患者痴呆狀ニ陷リ煩渴及ヒ尿意頻數ヲ訴フ

經過ハ或ル症ニアリテハ急性ノ經過ヲ採リ數年ニシテ終ルモノアルモ或ル場合ニアリテハ慢性ニシテ外觀上死因ノ此ノ病ニヨルコトナシ

此ノ症ノ原因ヲ說明スルニ付キ諸說アリト雖一モ缺點ノナクシテ受容シ得可キナシ「コーレー」氏ハ明白ニ確論セサリシモ松菓腺ノ肥大ヲ以テ之レカ原因ハ認メシカ如シ「クレブース」氏ハ胸腺ノ成年ニ至ルモ萎縮セス却テ肥大スルニ歸シ「ウヰルヒヨ」氏ハ此ノ症ヲ以テ或ル不明ナル症ノ未期ナラント推定セリ或ル學者ハ此ノ病ヲ以テ松菓腺ヨリノ分泌液ニ歸シ彼ノ甲狀腺ト粘液水腫ト互ニ關連スルカ如キモノナリトセリ然レトモ松菓腺ノ過度ニ肥大スル人ニシテ此ノ症ニ罹ラサルモノアリ又既ニ萎縮スルモノニシテ此ノ症ノ消散セサルモノアリ且ツ其ノ分泌液ノ只タ上下肢及ヒ顏面ノミニ限局スル腫脹ヲ發スルノ理ヲ說明スル能ハス恐クハ血管運動神經ノ異常ニ起因スルナラン或ル症ニアリテハ血液ヲ顯微鏡下ニ檢セシモ一ノ缺存シタル點ナク又毒物ノ認ム可キナシ今日只タ吾人ハ「バゼドウー」氏病或ハ粘液水腫ト同樣ナル疾病ト看做シ初期ニ甲狀腺溶液ノ皮下注入法等ヲ試行スルニ止ルノミ之レヨリシテ余ノ經驗セシ患者ヲ報セントス

患者ハ四十一才ノ獨乙人ニシテ米國ニ移住セシモノナリ、彼ハ私生兒ナルヲ以テ其ノ父親ノ如何ナル病ヲ以テ病死セシヤヲ知ラス母ハ患者ノ七才ニ至ル迄生活シ矮小肥滿シタル婦人ニシテ身体ニ畸形等ヲ有セサリシト云フ

既應症「バゼード」氏病ノ流行地ナル「シレシアン」ニ生

レ幼時ヨリシテ壯健只タ一回輕度ノ「マラリヤ」ニ感染セシノミ青年ノ頃手袋ヲ購求スルニ際シ手指ノ過大ニシテ大人ニ適スルモノニアラサレハ嵌メ能ハサリシヲ發見シタリト雖足ノ腫大ヲ同時ニ有セシヤヲ注意セサリシ尙ホ且ツ顏面等ノ腫大ニモ氣付カサリシト云フ十年前ニ「アメリ」カニ移轉シ初メテ常人大ノ靴ノ彼カ足ニ適セサルヲ認メ且ツ顏面及ヒ頭顱ノ腫大スルヲ他人ニヨリテ注目セラルヽヲ發見セリ「ニユヨーリ」府ニ着后梅毒ニ感染シ五年前ヨリシテ鬱憂病ニ罹リ時々自殺ヲ企テ精神力減退シ睡眠ニ耽リ屢々頭痛ニヨリテ惱マサレタリ、

現症身体短小ニシテ五尺四寸体重一七九「ポンド」ヲ有ス頭部ハ粗大ニシテ毛髮叢生シ鬚髭ハ短小ニシテ散生ス前頭ハ廣濶ニシテ著シク后方ニ退却シ眉部及ヒ前頭竇部凸隆シ顴骨隆起シ眼瞼ハ何分カ肥厚シテ重リ瞳孔ハ左右同等ニシテ光線ニ反應ス鼻ハ濶大ニシテ鼻翼肥厚シ鼻腔廣大ナリ耳翼ハ隆突スルモ顏面側部ニ迄至ラス下顎骨ハ腫脹シ殊ニ下顎枝部ニ然リトス口唇厚クシテ外翻シ殊ニ下唇ニ著シ齒牙ハ多少癈頽シ舌ヲ突出スレハ頤尖ヲ觸レ得可ク顏面ハ隋圓形ニアラスシテ寧ロ側方ニ膨大ス喉頭及ヒ鼻咽頭腔ハ異常ナク左鼻腔ハ下甲介骨ノ腫脹ニヨリテ半ハ閉塞セラル聲音ハ嗄嗄且ツ低シ頸ハ短ク太シ甲狀軟腺ハ外觀狀其ノ大サヲ減シ辛フシテ觸知シ得可シ二三ノ疣狀物頸圍ニ散在ス胸廓ハ尋常ニシテ肩胛聳突セス又骨ノ肥太ナシ心及セ肺臟ハ尋常ニ「エルブ」氏后胸部濁音ナシ腹壁ハ弛緩シテ懸垂腹ヲ現ハシ內臟諸臟ハ健全ニシテ毫モ異常ナク背椎前又ハ側彎ナク筋肉ハ柔軟ニシテ握力大ニ減少シ握力計ニテ試檢セシニ右手ハ二十左手ハ三十八ヲ算セリ上膊ハ前膊ト對照シテ肥厚シ只タ僅ニ前腕ノ腫大アリ手掌

面ノ皮下組織ハ彈力性ナリ硬皮症ノ如キ觀ヲ呈ス皺襞ハ深クシテ著明トナリ手指ハ比較的短小ニシテ扁平ナリ恰モ「ソーセージ」狀ヲ現ハス爪甲ハ長徑ニ比スレハ廣徑大ニ皺溝ヲ生セリ手ハ長サ八インチニシテ幅四、半「インチ」ナリキ

足ハ延大シ厚徑四インチ四分ノ一長サ十インチ四分ノ三トナル足趾ハ手指ノ如ク肥厚シ爪ハ扁平トナリ近隣ノ組織ヨリシテ包擁セラル跟骨突隆シ拇趾根ノ粘液囊膨脹ス尤モ著シキ發現ハ足ノ外緣ノ肥厚スルコトニシテ圖ニ示スカ如シ

皮膚ハ第三期梅毒疹ヲ有シ左右同等ニ軀幹及ヒ四肢ニ散在ス后頸圍ノ水脉腺腫起シ全身ニ水腫ナシ、

泌尿生殖器尿量增加シ蛋白ヲ含マス六、六七％ノ糖分ヲ含ム陰莖ハ常形ヲ保チ陰囊ハ弛緩シテ長ク睪丸ハ寧ロ大ナリ、

神經系他覺的又ハ自覺的知覺神經系ニ異常ナク膝蓋腱反射寧ロ遲張眩暈及ヒ失氣等ノ症ナク右眼ノ顳顬側ノ視力少シク減少ス兩眼共ニ赤色盲ニ罹リ網膜及ヒ視神經ハ尋常ナリ、

聽覺及ヒ嗅覺ハ敏銳ニ味官ニ障害ナシ

血液ヲ試檢セシニ「ヘモグロビン」ノ分量健体ノ九十五％ヲ現ハス一立方「ミリメートル」中七百万ノ血球ヲ含ム白血球ト赤色血球ノ比例一ト四百ナリ、

◎縫合糸トメノ新材料

(Riforma med. 1893. Mai 18.)

J. Vigezzi. 氏ハ犬ノ尾(可及的大ナル犬ヲ撰用ス)ニ存スル腱ヲ以テ結紮及縫合糸ヲ製シ遠ク他ノ材料ニ勝越スルヿヲ稱賛セリ此者ハ容易ニ製シ得ヘク馬尾毛ヨリ强ク腸線ニ比スレハ標品トナシ易ク且ツ徐々ニ全ク吸收セラルヽ者トス其製法ハ初メ腱ヲ充分清潔トナシ四

十八時間五百倍昇汞或ハ五%ノ石炭酸水中ニ投シ次テ千倍ノ昇汞水或ハ二%ノ石炭酸水若クハ五%ノ硼酸水中ニ貯フ此腱ノ頗ル平滑ナルカ爲メニ徒テ消毒ヲ易カラシムルハ又一得ト云フヘシ

◎傳染病ニ對シテ解熱藥ノ價値

(Deutsche med. Wochenschrift 1893. No. 14.)

O. Tross氏ハ傳染病ニ於テハ種々ニ作用スル所ノ有毒ヲ生スルヿヲ証明セリ卽チ

〔一〕釀熱ノ毒素

〔二〕心臟麻痹ノ毒素

〔A〕熱原ノ毒素ハ武蘭垤ノ大量ヲ與フルトキハ此者ノ作用ニ由テ其毒素ノ力ヲ減スルヿヲ得ル者ニノ熱ノ高度ナルトキハ從テ武蘭垤ノ大量ヲ無フヘシ武蘭垤ハ身体ニ向ッテノ燃燒材料ニノ自ラ酸化作用ニ供セラルヽヲ以テ体力ヲ節約スル所ノ作用ヲ有スル者ナリ

〔B〕心臟麻痹ノ作用ヲナス所ノ毒素ハ所謂强心劑(カンフル)、實芰答利コッフエーン　等ニ由テ其毒力ヲ減退セシメサルヘカラス此藥劑ハ膿毒症及實扶的里ノ如キ心臟麻痹ヲ起シ易キ所ノ傳染病ニ在リテハ未タ心力ノ減退ヲ始メサルニ先ッテ可及的早ク投セサルヘカラス

其他解熱藥ナル者ハ心臟ヲ麻痹セシメ易キカ故ニ之ヲ用ユルトキハ血中ニ循環スル毒素ニ由テ心臟ノ危險ヲ呈スルニ比スレハ尙一層早期ニ於テ心臟麻痹ヲ現ハス者ナリ之ヲ以テ解熱藥ハ一方ニハ必要ナク一方ニハ直接ニ心臟ヲ害スルヿヲ以テ決シテ用ユヘカラス

◎高膀胱截開術ニ際シテ膀胱擴張法

(Ann. of surgery 1893. Juni)

A. T. Bristow. 氏カ「レッチ」氏腔ノ「デモンストラチオン」ヲ爲サンカ爲メニ屍体ノ膀胱內ニ空氣ヲ充タセシ

ニ其際腹膜皺襞ハ趾骨縫裁ヨリ二乃至三「ツオル」上方ニ達シ之ニ反シテ空氣ニ代フルニ三百瓦ノ水ヲ以テ膀胱内ニ充タシ同時ニ直腸内ニ「タンポナーデ」ヲ施セシニ只タ半「ツオル」許上昇セシノミナリキ已ニ切開セシ所ノ腹壁ニ於テモ彼是ノ關係前者ト同一ナリシヲ以テ氏ハ此法ヲ以テ規則トシテ上膀胱截開術ニ賞用スヘキ者トセリ而シテ空氣擴張法ニ於テハ破裂ノ危險ナシ若シ膀胱ニ其内容ニ適當ナル容積ノ水（壓縮スヘカラサル）ヲ以テ充タストキハ水壓學ノ規則及平面壓力ノ僅カニ加ハルカ爲メニ非常ニ壓力ノ增加ヲ來タス之レニ反シテ彈力性ノ壓縮シ得ヘキ空氣ヲ用フルトキハ之レニ伴フ關係ハ全ク前者ノ他ニ存スル者トス今若シ呼出氣ニ由テ膀胱ノ擴張ヲ企ツルトキハ假令ヘ充分ノ呼出力ヲ用ユルモ壓力ノ昇騰ハ比例的僅微ニシテ膀胱ノ急速ナル收縮ニ際シ只タ空氣ノ濃度ヲ增スノミ膀胱壁ノ纖維間破裂ヲモ起スコトナシ此二者ノ差異ノ關係ハ水ノ重力ノ結果ニシテ之レニ由テ膀胱底及側壁ヲ骨盤底ニ向ツテ下方ニ驅逐センコトヲ務ムル所ノ水ニ比スレハ空氣ハ膀胱頂ヲ著シク高所ニ逐上セシムルコトヲ說明スルコトヲ得ヘシ其他空氣ヲ以テ充タセル膀胱ヲ切開スルニ際シ視野ノ渾濁或ハ出血性ノ液ニ由テ汚染セラレサルカ爲メニ膀胱内面ノ狀態ヲ明視スルヲ得ルモ亦一得ト云フヘシ吹入スル空氣ノ量ヲ知ランカ爲メニ尖端ノ膀胱内ニ送入シ得ヘキ護謨球ヲ用ヒ只タ尿道ノ狹窄ヲ有スル者ニノミ「カテーテル」ノ送入ヲ要ス空氣ハ容易ク綿花ニ由テ濾過シ得ヘシ又吹入スル空氣ノ逃逸ヲ防クニハ手ヲ以テ尿道ヲ壓迫スレハ足レリ著者ハ生活体ニ對シテ未タ此法ヲ試ミス云々

◎脚氣ノ傳染病ニ於ケル位置

(Virchow's Arch. CXXXII. 1. p. 50. 1893.)

Dr. Max Glogner. 氏ハ脚氣ノ傳染病ナルヿヲ証明センカ爲メニ臨床上傳染病及ヒ黴菌學上ノ檢査ヲ行ヘリ而ノ脚氣ハ痲刺利亞ト一定ノ類似症ニノ脈波線及呼吸線ニハ一定ノ昇降ヲ呈シ一二ノ患者ニハ此孤線昇騰ノ反復ニ於テ一定ノ規則正シキコトヲ証明セリ又ハ「ペケルハーリング」及「アイクマン」氏ニ反對シテ血液ノ障害(一部ハ赤血球ノ減少一部ハ「ヘモグロビン」含有ノ減退)ナルヿヲ主張シ其他脚氣ハ時期ト場所ノ素因ヲ有スル者ニシテ土地ノ廣ク開墾セラルヽトキハ特ニ著シク發病者ノ增加スルヲ見ルヘシ又降雨ノ多キ時期ニ於テハ患者ヲ增加ス此事實ハ氏ハ「ペケルハーリング」氏及其他ノ者カ主張スル黴菌ノ原因ニアラス又「ホウルチー」氏ノ所説ノ如ク「プトマイン」ニ因ルニアラスシテ蓋シ「アメォバ」ノ種類ニ起因スル者ナルヘキヲ推測セリ之レ實際氏ハ數多ノ場合ニ於テ赤血球中ニ「アメォバ」ヲ証明スルコトヲ得タレハナリ終リニ氏ハ脚氣ニ規尼涅ヲ用ヒテ良効ヲ奏スルヿヲ得タリ云々

(以上四項六法散士抄錄)

本會紀事

◎四十八回通常會

去る十二月廿三日醫學部臨床講義場内に於て午后二時より開會し出席會員十三名にて左の諸氏の演説あり午后四時散會せり

○第一席木村孝藏君は廿五歳の一男子の舌癌に於ける「コッヘル」氏手術式の實驗成績に就て其學説經過を詳演せらる

○第二席竹腰慶三君は「トラホーム」に於ける「クナップ」氏窄出法の成績に就て其實驗を演説せらる

○第三席飯森益太郎君は痔瘻燒灼の一便法に就て實驗說あり詳細は本號實驗欄內に揭出す

◎評議委員會

去る十二月十二日午后七時より醫學部臨床講議場に於て開會せり出席員十名にして過般來より事務多忙を以て辭表を差出されたる會頭木村孝藏君幹事藤本純吉君編輯委員清水來吉君の代員撰擧を議せしに事故此を得さるを認め各次點者に讓ることに決し左の三君當撰せられ各承諾せられたり

會頭　小林廣君　幹事　北村雄平君

編輯委員　藤井伊之吉君

◎會員動靜

○池龜祐氏は北海道天盛國天賣島に開業せらる

○得田易氏は本月上旬肺尖加答兒にて金澤病院に入院の處快方に赴き去る十三日退院せられたり

○荻野義勝氏は十二月下旬醫學部眼科助手を拜命されたり

○上野貞吉氏は十二月下旬醫學部內科助手を拜命せられたり

○横山軫氏は北海道函館區に開業せらる

○宇野鍋松氏は北海道江差病院醫員を奉職せらる

○黑柳精一郎氏は大坂市谷町二丁目百六十二番地に開業せられたり

○山崎秋津麿氏は北海道札幌病院醫員の處去暮後志國古宇病院長(月俸五拾圓)に榮轉せられたり

○丸山耕平氏は新發田營所服務中北蒲郡新發田本村西ケ輪に寓居せらる

○藤井伊之吉生駒廣太郎の兩氏は豫備服務中の處去十二月豫備三等軍醫に任せられ去暮歸澤せられたり

○清水來吉氏は同しく豫備三等軍醫に任せられ尙修學

の爲め東京麴町區永田町三丁目三十番地上杉方に寄留せらる

○森島彦夫氏は大學撰科の小兒科耳科を修め去暮歸澤せられたるか今回廣坂通新道にて開業せらるゝ由

○吉田和三郎氏は去月醫學部眼科助手（有給を拜命せられたり

○藤川武二氏は醫學部眼科助手を拜命せらる

○藤井伊之吉氏は去る十六日金澤病院醫員を拜命し外科勤務を命せらる

○渡邊順吉郎氏は去る十六日高等中學助手より金澤病院醫員に轉任せられ婦人產科小兒科勤務を命せられたり

◎入會者

高澤甚作君　富澤圭太郎君

◎退會者

横地重清君　松川恭一郎君　水野富次郎君

島村豐次郎君　細川亮吉君　加須屋武留君

尾島政憲君

◎死亡者

林虎太郎君

◎寄贈書目

東京醫學會雜誌	自第七卷第十七號至第七卷第廿二號	同會
法醫學會雜誌	自第九十一號至第九十八號	同會
國家醫學會雜誌	自第七十七號至第七十九號	同會
成醫會月報	自第百四十號至第百四十二號	同會
產科婦人科研究會雜誌	自第廿七號至第廿八號	同會
大坂興學社月報	自第五十七號至第五十九號	同社
大坂醫學研究會雜誌	自第十六號至第十七號	同會
熊本醫學會雜誌	第六十九號	同會

千葉縣醫學會雜誌　自第十六號至第十七號　同會
福井縣醫學會雜誌　第十一號　同會
杏林之栞　自第五卷第八號至第五卷第十一號　玄洋醫會
兵庫縣醫學會雜誌　自第十八號至第十九號　同會
日本衛生新聞　自一號至二號　同社

◎編輯委員と辭す

曩きに我か會か編輯を代ふるに際し如何なる機にやありけん不肖誤りて諸君の撰に當りぬ當時不肖は誠に其任には堪さるの故をもて固く辭みつれと、前きの編輯委員諸君の如きは『依然其任に在る時の如く力を盡くすへけれは』との親しき勸めに辭み兼る且つは諸君の推薦に背くも本意ならす不肖も亦聊か惡生の力を籠めて諸君の驥尾に附き其任の一〇分をたも盡さむと期し暫く之れを諸しつ、されと、もと文筆の業を良くせさるとと、剪劣非才なるとを以て、徒らに名にのみ坐してなす事もなく其職を曠ふせり、爾後軍務を東京に奉するに及ひては更らに千里の山河を隔つると、軍事の忙とを加へて、全く其任に背きぬ、されは我か寛大宏量なる會員諸君は例令默過せらるゝ共不肖如何なる厚顏ありてか其員に列なるを得へき、今にして尙退かされは啻に會員諸君を義るのみならす他の編輯委員二君をして一倍の勞を重ねしむるの罪誠に淺からす不肖の衷心一片廉耻の念湧て止まず夜々夢に入りて枕安からす、あはれ、會員諸君よ、この在て益なき不肖をして速かに編輯委員を辭せしめられむには之れに過きたる幸やあるへき、あらす、不肖は玆に謹んて其任を辭す、

編輯委員　清水來吉

醫海時事

◎卒業祝宴會

去月廿四日古寺町鍔甚樓に於て醫學部第六回卒業生の祝宴會を例年の如く盛擧せられたり當日雨天にも拘はらす會場に集る者雲の如雨の如く樓前の醫祝と作花せし額ある綠門を潛る時は皆愉快なる歡を懷けり來賓卒業生及學生諸氏合せて百五十有余名午后三時一同着席するや樓下犀水河畔に於て轟然一發雷鳴を聞く蓋し開會を報するの煙花なり先つ拍手の音に迎へられて演臺に顯はれたるは發企人總代河那邊豐三氏にして開會の辭を述へ且つ來會諸君へ挨拶あり次て三年生木下元眞氏卒業を祝し尙卒業生諸氏に向て二三の希望を述へられたり第三席は卒業生總代藤川武二氏にして例の雄辨にて我々の爲めに盛大なる宴會を開かれたるの光榮を述へ且つ發企人及來會諸氏に謝するの挨拶あり尙后來に向て此光榮に酬ゆるの期心を演說せられ拍手の間に着席せり次て醫學部中最も能辨の聞ゐある藤井秀氏顯れ出たり氏は落付拂つて拍手の止むを待ち輕唇を開て諸君の卒業は實に目出度くして祝するに珍奇の言なく賀するに斬新の語なし殊に前年自分の卒業の時は同級中落第者ありたるも今回は袖を連て及第せられたるは尙一層諸氏の愉快滿足なるへしと述へ夫より自分卒業后の經歷を述へ實驗的に卒業生后來の注意と希望を述へられたり次て飯森益太郎氏は卒業を祝すると同時に高等中學の價値をして世間に信重せしめんと欲せは卒業生たる諸氏は最も責任を負はさる可らさる旨を演說せられたり右終るや亦も轟發の響を聞く是れ配膳を報する煙花なり是れより酒肴交々至り歡聲場内に滿つ忽ちにして場の一偶より劍を振て吟ちつゝ舞出つる者あり是なん劍舞に堪能の譽ある新保宗太郎氏なり配膳にある拆詰の五種料理を持て場内に突立つ者は富澤圭太

郎氏にして氏は滑稽的に一々料主を示して卒業を祝するの語に適中せられたるは頓知卽妙と云ふへし次て竹腰慶三氏は今回の卒業を祝する爲めに場内に千羽鶴を放て賀意を表すへしとて十能(せんば)(俗言)を紐にて釣下けたり此間絶へす犀水にて煙火數十發を打揭け殊に衆目を引きたるは醫祝の文字顯はれたるにありき場内詩歌湧き歡聲溢れ午后十時頃より十分の快を盡して退々散會せられたり當日は四年三年生一同及ひ二年一年生の内數名總て周旋の勞を取り恙なく千秋樂となりにけり」因に曰く例年妙絶の技許ある高安教授の手品なかりしは遺憾なりき、

◎實扶的里亞流行

昨年八九月頃より當金澤地方は往々該患者のありしか漸々增加の模樣あり十月より本月迄金澤病院へ入院せし者二十五名なり流行は猛惡ならさるも五％の死亡者ありしと云ふ

◎新年宴會

本月四日午后三時より淺東花月庵に於て金澤病院職員一同の新年會を催されたり

○又同日金澤醫會には醫會堂に於て拜賀式を擧行せられたり

◎在東京第四高等中學校醫學部出身者大懇親會の景況

舊臘十一月廿五日目下東京に於ける第四高等中學校醫學部出身者の懇親會あり會場は上野公園内なる名にしあふ櫻雲臺(八百膳)にして此日や天氣晴朗恰も好し園内の楓樹今を盛りに紅を潮し何時に無き風景なれは開會に先ちて園遊を試み午後四時を報するや一同着席し發起人の一人野口詮太郎君は起つて開會の主旨として諺にも狐死して正しく丘に首ふは仁なりと云ふ言もあ

れは況して我々か第二の故郷とも第二ノ父母とも崇むへき第四高等中學校の恩義を忘却するは大に耻つへきことなり左れは此の如き會を起して第四高等中學校醫學部出身者にして上京せる者互に會合し奬厲誡慎を旨とし親睦を厚ふし吾醫學部の名を汚さゝるこそ肝要なれは迅に此會を起さんとを希望せるも機會なくして今日に延引せり且此度は小原芳雄君か遙々熊本より軍醫學校召集醫官として上京せられたるを祝し清水來吉生駒廣太郎酒井米城野澤武三郎藤本鉄次郎藤井伊之吉の六君か見習士官として上京せられ不日當地出發の筈なれは之れか迎送會を兼ねて開會せる旨を告け次て小原芳雄君及ひ清水來吉君の謝辞あり之に次て遠藤四郎君は懸河の辨を奮ふて發起者か非常の盡力を以て茲に此會を開くに至れるを謝し且つ我醫學部出身者此の如く多數に上京せる以上は一致團結の必要を感すると同時に一年一回乃至二回今後此會を連續せんことを發議し非常の拍手喝采を以て賛稱せられたり坂野長三郎君も亦た氏か此回大日本醫會へ列席せんか爲め上京せし旨を述へ來會者に向つて大日本醫會を賛成して之に加名せられんことを希望して坐に就きぬ頓て献酬數行互に袂別後の談話をなし殊に關野岸吾君の發議にて今より后は一身上の異動ある毎に金澤醫學會に報告して全雜誌に載せんことを約し滿場の賛同する所となれり酒酣にして生駒廣太郎君の得意なる劍舞あり數名の紅裙は絶へす其間を周旋し各々十二分の歡を盡して散會せしは恰も十時の鐘を報する頃なりし

此會の發起者は野口關根勝木の三君にして開會一ヶ月前より非常に周旋せられ殊に東京市内とは云へ來會者の互に遠隔せるか爲め一層の勞を感せられし由

當日出席者の人名左の如し

小原　芳雄君　笹川　宗治君　關野　岸吾君
加藤駒三郎君　清水　來吉君　生駒廣太郎君
酒井　米城君　藤本鉄次郎君　遠藤　四郎君
五味川光金君　坂野長三郎君　早川豐次郎君
藤井伊之吉君　野口詮太郎君　勝木　直吉君
關根　倉治君

當日事故欠席者の人名左の如し

渡邊喜八郎君　野澤武三郎君　梁　貫男君
川西初太郎君　中村元八郎君　村田　醇君

◎林虎太郎氏逝く

會員同氏は越中の人夙に醫學部に入り苦學其効を全ふし昨年十一月卒業の榮を負ひ歸鄉するや不幸にも化膿性肘關節炎に罹り全月廿六日終に黄泉の客と爲れり我輩は諸君と共に此有爲の壯年卒業者をして其志を伸ふるを得す空しく北邨一片の煙と化するを悲まざるを得す嗚呼

◎林氏の追悼祭

故林虎太郎氏の爲めに知己學友相謀り十二月某日當市梶町八幡神社々殿に於て追悼祭を擧行せられ藤井秀氏の祭文朗讀あり舊交の人皆涙に咽せたりと云ふ誠に美擧と云ふへ

◎驗温器の檢定

從來坊間鬻く所の驗温器は其度目素より不定のものにして多少の差あるを免かれす甚しきは一度以上の差を見ること敢て珍らしとせす稀には舶來品にして外國に於て檢定し度差表を付したるものあれとも元來驗温器は一定時日を經るか又は遠路航海等に依て復た多少の差を來すものにて舶來其物とて必すしも精確の度を示すものたらさるは普く人の知る所にして如斯驗温器を

用ゆるものは恰も指を以て物を尺度すると一般到底眞正の温度を示すこと能はざるを遺憾とし東京々橋區瀧山町八番地の東京顯微鏡院にては這回業務擴張の一着手として檢定部中に驗温器檢定に關する精確完全なる裝置方法を設け檢定の上は一々精密なる改正度目加減表幷に驗温器使用法を交付すると云へは當用者に取りては實に空前の賜と云ふへし去れは此擧を聞き傳へたる府下三四の病院及諸大家は向後同院に委囑して檢定濟の外使用せすとの特約を結びたる向もあり從て醫療器械舗は競て特約檢定を申込むに至りしと云ふ

◎林虎太郎君逝く矣

人世の不幸は死より大なるはなし君此死を救ひ斯民を壽域に躋さんと欲し夙に第四高等中學校醫學部に入り螢雪琢磨の功を奏し昨年十一月廿五日醫學全科卒業證書を受く君の得意想ふへし君か父兄の滿足君か鄉人の喜悅察するに堪へたり然るに何そ圖らん其翌廿六日忽焉として不歸永眠の客となれり嗟呼悲夫嗟呼痛夫余輩は實に其弔詞なきに苦むなり聞く君卒業試驗結了后鄉里越中に歸省し一日突然支節窒扶斯(右上肢)を發し鄉里近傍の某病院に入り種々の治法を行ひたるも寸効なく熱發の爲人事不省に陷り危篤に迫ること數日而して君の學友代て卒業證書を受領したるの翌日君終に逝くと嗟呼此日君の逝く素より命數と云ふと雖とも證書受領の翌日を期するは豈奇ならずや是れ余輩をして君か病中の遺憾を想察せしめ君の逝去を痛哭するに層一層を加へしむる所たり嗟呼悲夫嗟呼痛夫

◎故林虎太郎君追悼會

去る十二月十七日本市安江神社に於て仝君の追悼會を施行したるに仝君の學友知己の來會する者數十名其式は最も嚴肅鄭重にして藤井秀氏か涙を揮ふて祭文を朗

讀せしか如きは大に來會者の嗚咽酸鼻を促かせりと云ふ因に曰く該會を開くに最も盡力せしは仝窓の卒業生野崎三郎氏なりしと云

廣告

謹賀新年

會頭 小林廣
副會頭 山田謙治
幹事 岡田剛吉
仝 上杉寛二
仝 北村雄平
編輯委員 瀨戸卯三郎
仝 竹腰慶三
仝 藤井伊三吉

恭賀新年 吉田和三郎 荻野義勝

恭賀新歲 飯森益太郎 笠間大作 森亮 藤井秀

恭賀新年 吉田茂人

謹奉賀新年 田中正鐸

恭賀新歲 東京衞戍病院 笹川宗治 野口詮太郎

(告廣)

謹賀新禧
東京下谷區町三番地
關根倉治
勝木直吉

謹祝新正
東京麴町區永田町二丁目三十番
清水來吉

謹奉賀新年
地長野縣縣吏級郡稻荷山町
山田孝太郎

恭祝新歲
石川郡一木村字村井
得田易

第五回講習科募集

本院講習科五拾名ヲ限リ募集シ二十七年二月十六日ヨリ始業ス志望者二月十日迄ニ申込マルヘシ

但規則書入用ノ向ハ郵券貳錢送ルヘシ

東京市京橋區瀧山町八番地
東京顯微鏡院

●國家醫學會ノ目的及事業ノ要旨●

我國家醫學會ハ元ト國政醫學會ト稱シ明治十六年ノ創立ニ係リ衞生學、衞生警察學、法醫學、精神病學、毒物學、裁判化學、醫制及醫事法理等專ラ國家及公衆醫事ニ關スル學術ヲ研究シ且ツ其應用ノ普及ヲ謀ルヲ目的トシ毎月一回常會ヲ東京ニ開キ專門講師ノ講演、會員ノ談話及ヒ時々重要問題ノ討議ヲナシ又明治廿年以來學術上及實際上有益ノ事項ヲ採錄セル國家醫學會雜誌ト題スル雜誌ヲ月刊シテ會員ニ配布シ已ニ八十餘號ニ達セリ加フルニ昨年ヨリ新ニ專任委員若干名ヲ置キ特ニ會長ヨリ各專門家ニ其學科ニ關スル新說、實驗ノ寄稿ヲ囑託セルヲ以テ雜誌上更ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタリ茲ニ本會ノ目的、事業ヲ略述シ併セテ會規ノ摘要ヲ附シ以テ汎ク天下同志ノ士ニ頒ツ冀クハ醫師、藥劑師、法官、議員、警察官、衞生官吏、監獄吏員、及ヒ代言人其他凡テ國家及ヒ公衆醫事ニ關係セラルヽ諸彥陸續入會シテ與ニ共ニ本會ノ隆盛ト斯道ノ發達ヲ圖ラレンコトヲ

明治二十七年

東京市京橋區采女町拾四番地

國家醫學會

●本會現任役員姓名(イロハ)順

會長　三宅　秀

評議員　長谷川　泰　緒方　正規　片山　國嘉
高橋順太郎　丹波　敬三　大澤　謙二
山根　正次　小金井良精　後藤　新平
柳　敞　北里柴三郎　下山順一郎

幹事　原田　貞吉　遠山　椿吉　村上　庄太
吳　秀三　佐藤　保　鈴木萬次郎

國家醫學會規則摘要

一本會ハ國家醫學ニ關スル學術ヲ研究シ且ツ其應用ノ普及ヲ謀ルモノトス

一本會ノ事務所ハ東京市京橋區采女町十四番地ニ置ク

一本會々員ハ醫師、藥劑師、法律家、議員、警察官、監獄吏、並ニ公衆衛生ニ關スル當局者等トス

一本會會員タラント欲スル者ハ其姓名族籍現在住所ヲ記シ會費ヲ添ヘ本會事務所ニ送附シ諾認票ヲ受ク可シ

一本會々員ハ會費トシテ在京會員ハ一ケ月金廿錢地方會員ハ金拾五錢ヲ本會事務所ニ送附ス可シ但シ地方會員ハ半箇年分以上ヲ前納スルヲ要ス

一本會ハ左ノ諸科ヲ研究スルカ爲メ毎月一回(第四金曜日)常會ヲ開キ專門家ヲ招聘シ又ハ會員ヲシテ講議、演說、談話等ヲ爲サシム又宿題ヲ設ケテ討論ヲ爲ス可シ

衛生學、衛生警察學、法醫學、精神病學、毒物學、裁判化學、醫事法理、醫制

一本會ハ國家醫學應用ノ普及ヲ謀ルカ爲メ隨時實際問題ヲ攻究ス

但シ本條ノ場合ニ於テハ臨時委員ヲ設クルコトアル可シ

一本會ハ毎月一回雜誌ヲ刊行シ在京及ヒ地方會員ニ頒布ス

一本會ハ毎年一回總會ヲ開キ左ノ諸項ヲ擧行ス

一前期間本會事務成績ノ報告

一前期間本會々計決算ノ報告

一議事

一役員ノ改選

一演說談話等

●國家醫學會雜誌ト國家醫學トノ區別●

國家醫學會雜誌ハ本會刊行ノ非賣雜誌ニシテ「國家醫學」及ヒ「國家醫學講議錄」ハ「國家醫學社」刊行ノ發賣雜誌ナリ其間毫厘モ關係アルコトナシ然ルニ世間往々誤テ之レヲ混同スルモノ有リ依テ茲ニ一言ス

●結核喀痰檢査（毎日施行）

○依頼者ハ喀痰ヲ清潔ナル器ニ容レ送附スヘシ

○本院ハ檢査ヲ終ヘタル后直チニ成績証ヲ交附ス

遠方ハ硝子瓶、硝子管、毛細管、等ニ容レ密閉シ又ハ痰ヲ直チニ護謨紙、油紙、等ニ數層ニ包ミ又ハ硝子板、載物硝子、若クハ覆蓋硝子、ニ塗布乾燥シテ**郵便**其他ノ方法ニテ**送附**スヘシ

○**檢査料**尋常檢査ハ金三拾錢成績証ノ郵送ヲ要スルモノハ郵券金貳錢ヲ添フヘシ

●驗溫器檢定

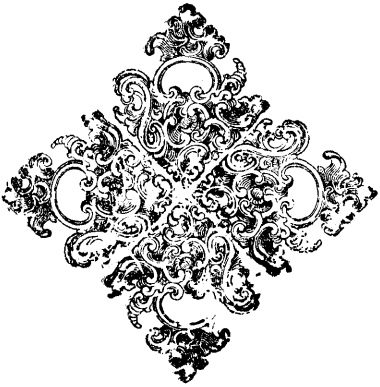
○檢定ナキ驗溫器ハ眞正ノ溫度ヲ示サス○驗溫器使用者ハ改正度目加減表ヲ附シタル檢定濟ノ者ヲ購入スヘシ（本院檢定濟ノモノハ各器械舗ニアリ）○陳舊ニシテ狂ヒアル驗溫器モ檢定スレハ眞正ノ度目ヲ知ル可キ有用ノモノトナル○檢定料一本金拾錢一「ダース」以上ハ大ニ割引ス

東京市京橋區瀧山町八番地 **東京顯微鏡院**

取消

本會雜誌第五卷第四十一號本會紀事欄內小林廣君の「シラヒト」「コクミ」に就ての演說筆記中誤謬の箇處有之一先つ取消す

編輯委員



明治廿七年一月二十八日印刷
明治廿七年二月四　日發行

非賣品

石川縣金澤市油車町二十六番地
編輯者　瀨戸卯三郎

石川縣金澤市石浦町二十三番地ノ二
發行兼印刷者　吉本次郎兵衛

石川縣金澤市西町藪ノ内一番丁一番地
發行所　金澤醫學會事務所

常集會日表

一月二十日	七月廿一日
二月十七日	八月休會
三月十七日	九月十五日
四月廿一日	十月二十日
五月十九日	十一月十七日
六月十六日	十二月十五日